

自閉症の子供に向けた金銭管理のプロダクト

Money management products for autism children

上野 美月¹⁾

指導教員 谷上 欣也¹⁾

1)サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 プロダクトデザイン研究室

キーワード：自閉症，金銭教育，子供，発達障害

1. 研究目的

私には自閉症の従兄弟がおり、その特徴的な感覚と行動を目の当たりにする機会が度々あった。個人差はあるが、自閉症の方は抽象表現の理解が困難であったり、見通しを立てて行動することが苦手であるという。そしてその傾向が金銭管理にも影響を及ぼすという話を叔母から聞いた。本研究は、自閉症の小学生から高校生がお金の機能を理解し、見通しを立てて金銭管理が行えることを目的とする。

2. 調査内容

●子供の頃からの金銭教育の必要性

障害のある子供を持つ親 200 人に行われた調査では、83%の人が金銭教育を必要と感じる一方で、実際に行っている割合は 22% にとどまった。^[1] 管理に関する悩みでは、「貯金や財布を持ち歩く概念がない」、「お金の価値がわからず欲求のまま使ってしまう」という声があった。また、会計時の不便さについては「ひとつひとつの手順に時間がかかる」、「レジでのやりとりに不安がある」、「手先が不器用で財布からお金が出しづらい」などの意見がみられた。

●既存の自閉症教育

自閉症教育において、「構造化」を重視した「TEACCH プログラム」というものがある。これは予測不可能な事態が苦手な彼らに対し、「構造化」の手法を用いて環境を整理することで、状況理解を助ける教育方法である。^[2]

実際に自閉症当事者である私の従兄弟が通ってい

た支援学級では、1 日のスケジュールを黒板に書き出し、終えたタスクを 1 つ消していく方法がとられていた。彼らは視覚優位の傾向にあり、シンプルで明快な提示が理解しやすいためである。^[3]

3. コンセプト

金銭管理は、収支を理解し、見通しを立ててコントロールしていくものである。会計時にはその都度小銭の量を考えて支払いをしたりと、臨機応変な対応は必要不可欠だ。自閉症の方は「暗黙の了解を理解しづらい」という特性があり、予測不可能な事態の対応が困難である。^[4]

以上の理由から、「金銭の暗黙の了解をなくすこと」を本研究のコンセプトとした。前記の自閉症の子供をもつ親への調査では、金銭教育を必要とした上で特に何も行っていないという家庭もあった。このように、各家庭で 1 から綿密な金銭教育を行うことは難しい。個人に合った方法を展開できるように、「金銭教育の基盤」を作る必要がある。

4. アイデア展開

●試作検証 1 「お金の管理方法」

自閉症の特徴として、臨機応変な対応が苦手な傾向にある。会計時に小銭の効率的な使い方ができず財布の中が小銭で溢れてしまうことも少なくない。そこで、一 1 つ目の写真のように細かい小銭を袋にまとめて管理する方法を検討した。(図 1) 1 円玉を 5 枚まとめて 5 円として利用するなど、お金の種類を繰り上げて保管する方法である。袋にまとめたお金は、その袋に表示された金額通り

に箱に割り振り、表示通りの金額として扱う。袋はそのまま財布に入れて使用することを想定したデザインになっている。写真のような割り振り箱に検証では、「手先が不器用で袋づめが大変」、「仕組みが複雑」などの声があり、お金の種類分けやシステム自体を見直す必要が生じた。また、著者本人が会計時に袋にまとめたお金を使用してみたところ、袋のデザインが奇抜で人目が気になるという問題点もあった。自閉症の特徴を考慮した上での「理解し易いデザイン」は重要だが、人目を気にせずに使い続けたくなるデザインを検討する必要がある。

●試作検証2「お金を持ち運ぶ方法」

家計は手順が多く、一定のスピード感が求められる。そこで会計時の工程をスムーズにすることを目的に、2枚目の写真のような視覚的に金額把握のしやすい見開き型の財布を制作した。(図2) 左右で機能を分けることで、手持ちのお金の量を把握しやすい。右側には一旦しまうことができるスペースの確保として「お釣りとレシート用ポケット」を取り付けた。検証では、金額と機能の把握はしやすいものの手指の動作が多く、安定感が必要であると感じた。

5. 今後の課題

これまでに機能性を重視した試作を制作したが、いずれも自閉症の特徴である「手の不器用さ」への配慮が不十分である。細かい作業や両手が塞がってしまうデザインは避け、使いづらさで金銭のコントロールを妨げないように注意を払う必要がある。今後は2つの試作の機能を融合させ、安定感と明瞭さを意識した第3試作を制作する。首から下げるタイプの財布は仕様を変更し、一般的な財布の概念にとらわれない新たな形を目指す。その他に会計時に箸や袋などの希望を伝えるカードを制作する。自宅での金銭管理については、銀行での預金やキャッシュレス決済など「見えないお金の動き」についてどう伝えるかを課題とし、解りやすく金銭感覚を身につける詳細なステップを設ける。試作後には改めて検証を行う。



図1. お金の種類分けによる管理方法



図2. お金の視覚的な種類分けと持ち運び方法

参考文献

- [1]鹿野佐世子, 前野彩:今日からできる!障がいのある子のお金トレーニング, 株式会社翔泳社, 2016
- [2]りたりこ発達ナビ:TEACCHとは?ASD(自閉症スペクトラム障害)の人々を生涯支援するプログラムの概要を紹介【専門家監修 ageRank 徹底解説】, 2017, https://h-navi.jp/column/article/2022_10_2
- [3]こども発達支援研究会:視覚優位と聴覚優位について, 2020, https://kohaken.net/20200213-v/2022_10_2
- [4]笠原麻里、平野健一:赤ちゃん～児童期発達障害の子どもの心がわかる本, 株式会社主婦の友の会, 2016